

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査 (本校の概要)

令和元年9月

## 1 概要

### (1) 調査の目的

一人ひとりの児童の学力・学習状況に応じた  
学習指導の改善・充実に向けて

狭山市立御狩場小学校  
校長 鈴木 真澄

本調査は、全小中学校を対象にした調査であり、目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」(実施要領より)です。

本校では、この趣旨に基づき、調査結果を踏まえ、教育計画等を検証し、改善を図り、児童生徒への学習指導の充実に努めてまいります。さらに結果の概要を保護者並びに地域住民に示すことにより、児童生徒の学習状況の改善にご理解をいただき、今後も引き続き学校教育にご協力ご支援をいただきたく存じます。

なお、この調査により測定できるのは、あくまでも学力の特定の一部分であり、この調査から得られたことが全ての教育活動を評価するものではないことをご理解ください。

(2) 実施月日 平成31年4月18日(木)

(3) 実施学年 第6学年

(4) 実施教科等 国語 算数

- ※今年度の調査の特徴
- ・知識と活用を一体的に問う調査問題(A/B問題の廃止)
  - ・中学校で英語調査を導入

(5) 質問紙調査 (学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査)

## 2 実施教科における全国・埼玉県・本校の平均正答率

### (1) 各正答率

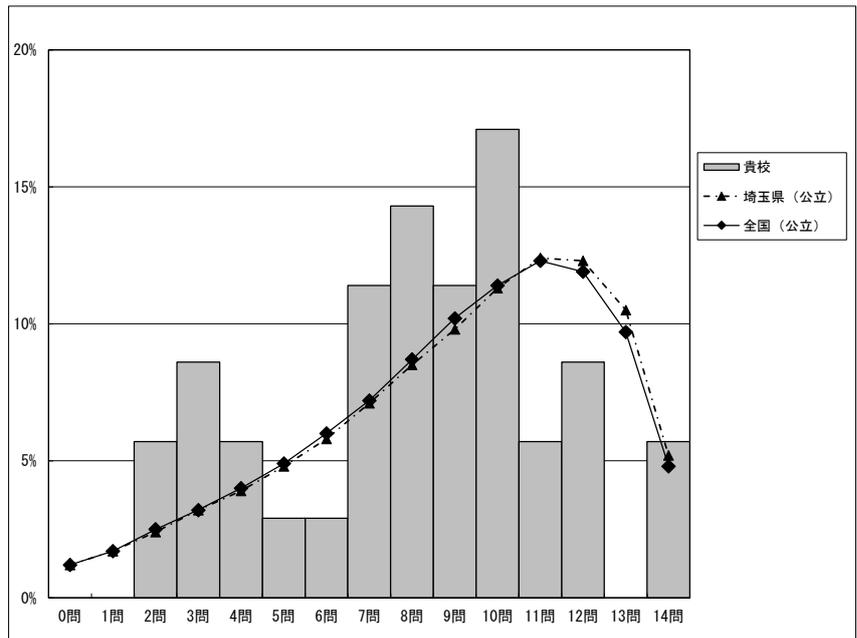
	国語 平均正答率	国語正答率 (%)	算数 平均正答率	算数正答率 主として活用
狭山市立御狩場小学校	8.1/14	58.0	9.9/14	71.0
埼玉県(公立)	9/14	64.0	9.2/14	66.0
全国(効率)	8.9/14	63.8	9.3/14	66.6

埼玉県・全国より  
上回っている

埼玉県・全国より  
下回っている

### (2) 国語

国語 学習領域	御狩場小	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
話すこと・聞くこと	62.9	71.6	72.3
書くこと	49.5	52.9	54.5
読むこと	73.3	81.1	81.7
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	49.7	57.1	53.5



全国学力・学習状況調査 国語 結果考察

(小6) 全体平均は全国・県ともに下回る。

○必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことはできている。

(本校 85.7% 全国 88.8%) 設問2-二

○インタビューの場面で、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることはできている。

(本校 80.0% 全国 81.4%) 設問3-一

▼相手にわかりやすく情報を伝えるための記述の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題がある。

設問1-二 □公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する

(本校 62.9% 全国 63.6%)

設問1-三 □公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く

(本校 28.6% 全国 28.9%) 無回答率(本校 20.0% 全国 3.8%)

▼漢字(同音異義語)を文の中で正しく使うことに課題がある。

設問1-四ア □公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中のアを、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう) (本校34.3% 全国42.1%)

設問1-四ア □公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中のウを、漢字を使って書き直す

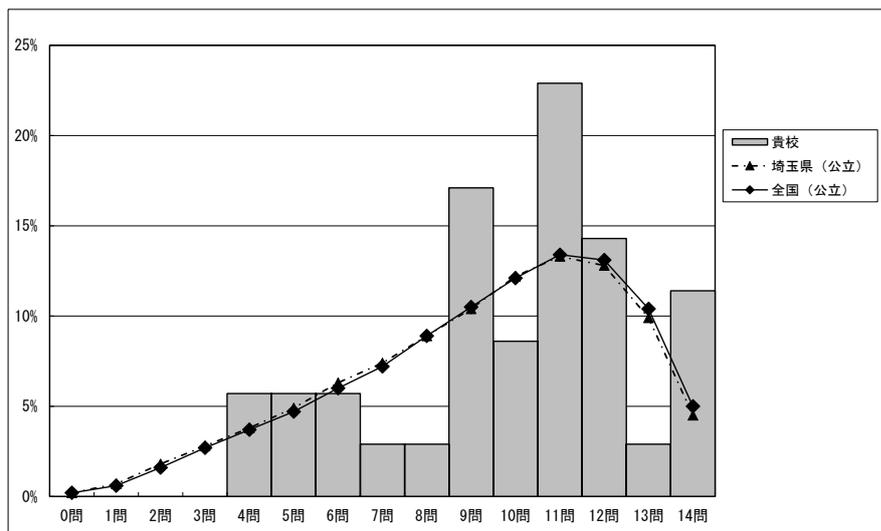
(かんしんをもってもらいたい) (本校51.4% 全国 35.8%)

(全体として)

語句の知識・理解は定着しつつある。今後も引き続き、授業内や家庭学習の積み重ねによって正答率を上げていきたい。文章を読んで考えたことを書くことに関しては、4~6年生すべての学年で苦手としている傾向がある。無回答率も高いことから、苦手意識があるようにもとらえられる。国語の授業のみならず、各教科でのまとめ、行事ごとの作文などを構成に気をつけて書く活動を計画的に取り入れていかなければならない。

(3) 算数

算数 学習領域	御狩場小	埼玉県(公立)	全国(公立)
数と計算	70.6	62.5	63.2
量と測定	48.6	51.7	52.9
図形	81.4	75.4	76.7
数量関係	74.7	68.3	68.3



全国学力・学習状況調査 算数 結果考察

○算数の全体平均は、全国・県を、上回った。ただ「量と測定」の領域は、全国・県を下回った。

○2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書くことは、できている。

(本校 91.4% 全国 78.6%) 設問2- (2)

▼示された場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを記述し、その結果から判断することに課題がある。

設問4- (3) □はるとさんたちがレジに着くまでにかかる時間の求め方と答えを言葉や式に書いて書き、判断する問題 (本校 60.0% 全国 62.8%)

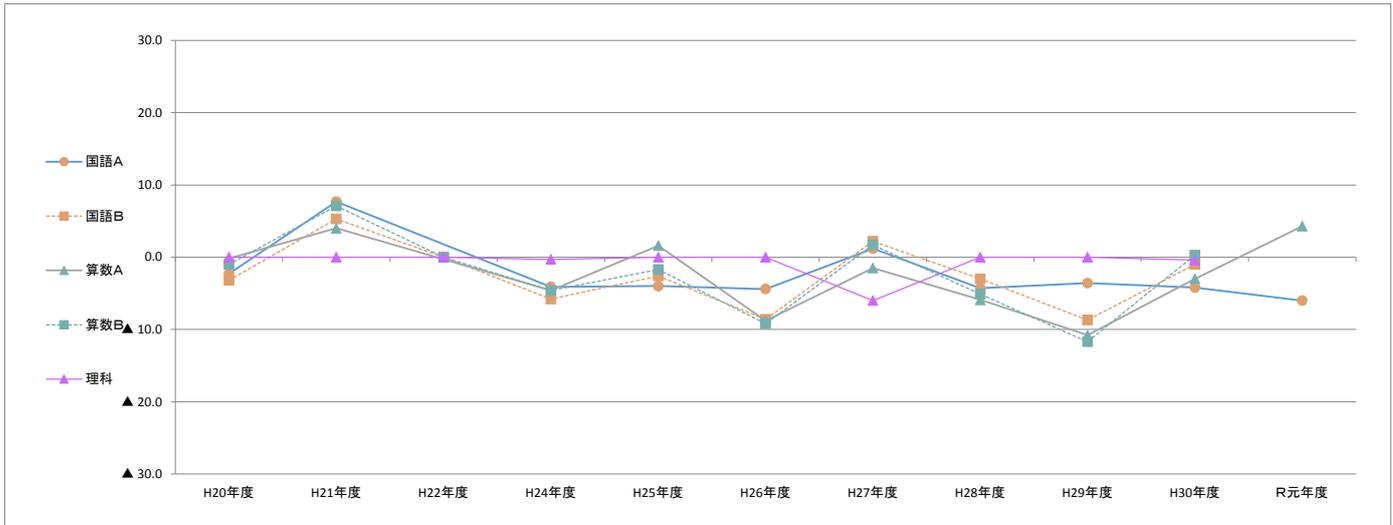
▼示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。

設問2- (2) □示された計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書く問題

(正答例) わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。

全体的には、算数は全国の平均よりもうえだったが、国語と同様に記述式の問題になるともう少しであった。これは無回答率が高い問題がいくつかあったことによるだろう。{設問1- (3) 記述式 (本校無回答率 17.1% 全国無回答率 6.7% )} 問題に対しての基礎的な理解や意欲が不足していることを表しているのも、基礎をしっかりと固め、習熟度の高い児童は発展的な問題にどんどん取り組ませていくことが必要であると考え。

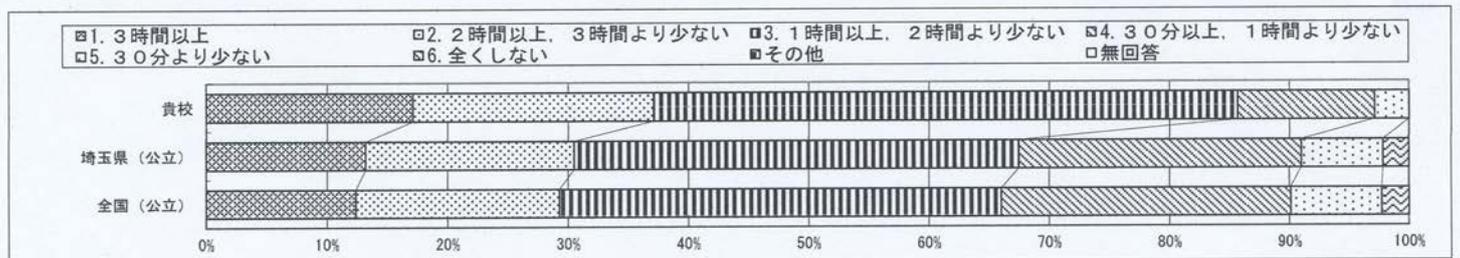
### 3 全国平均正答率との差 推移



	教科	H20年度	H21年度	H22年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
全国平均との正答率	国語A	▲ 2.3	7.7		▲ 4.1	▲ 4.0	▲ 4.4	1.2	▲ 4.3	▲ 3.6	▲ 4.2	▲ 6
	国語B	▲ 3.2	5.3		▲ 5.8	▲ 2.6	▲ 8.6	2.2	▲ 3.0	▲ 8.7	▲ 1.0	
	算数A	▲ 0.2	4.0		▲ 4.6	1.6	▲ 8.8	▲ 1.5	▲ 5.9	▲ 10.8	▲ 3.0	4.3
	算数B	▲ 1.0	7.1		▲ 4.6	▲ 1.7	▲ 9.2	1.7	▲ 5.1	▲ 11.7	0.3	
	理科				▲ 0.3			▲ 6.0			▲ 0.4	
(全国平均) 全国平均(国公立)	国語A	65.6	70.1	83.5	81.7	62.9	73.1	70.2	73.0	74.9	70.9	64.0
	国語B	50.7	50.7	78.0	55.8	49.6	55.6	65.6	58.0	57.6	54.8	
	算数A	72.3	78.8	74.4	73.5	77.3	78.2	75.3	77.8	78.8	63.7	66.7
	算数B	51.8	55.0	49.6	59.2	58.6	58.4	45.2	47.4	46.2	51.7	
	理科				61.1			61.0			60.4	

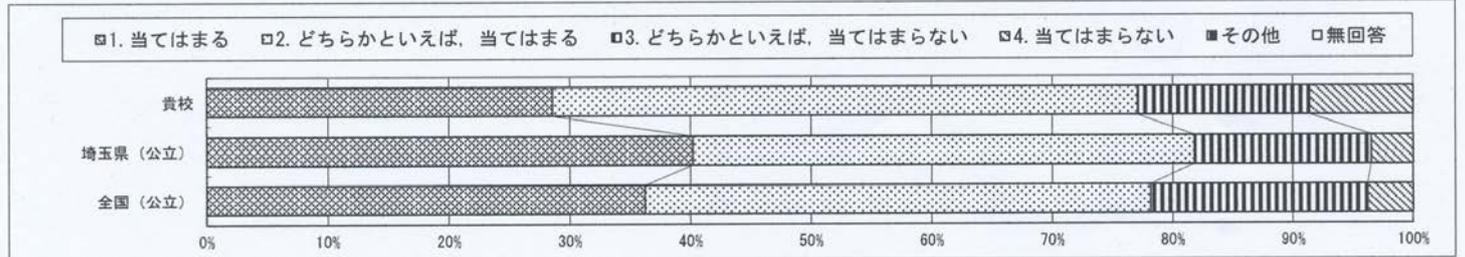
### 4 質問紙調査から見られる全国・埼玉県・本校児童の様子

質問番号	質問事項										
(18)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	17.1	20.0	48.6	11.4	2.9	0.0				0.0	0.0
埼玉県(公立)	13.2	17.3	37.0	23.5	6.8	2.2				0.0	0.0
全国(公立)	12.4	16.9	36.8	24.1	7.6	2.3				0.0	0.0



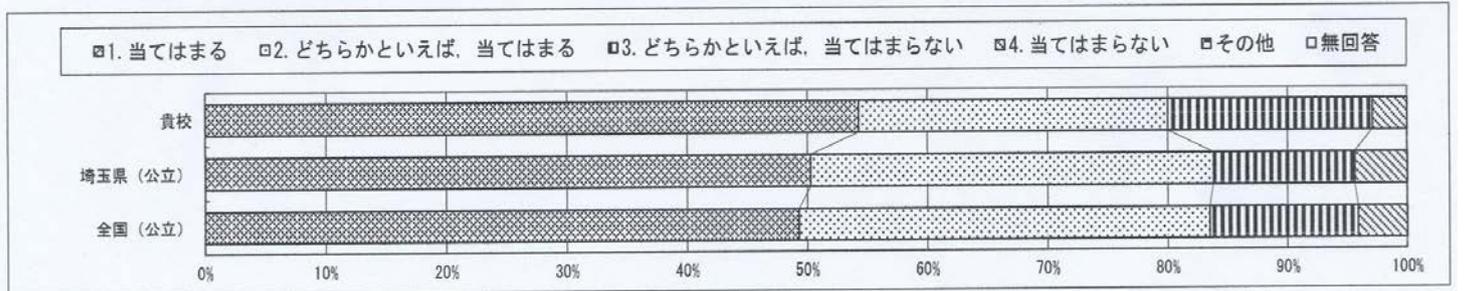
この質問で「1時間以上」と回答した児童の割合は、全国・埼玉県の割合よりも多い。この数年取り組んできた家庭学習の習慣が身につつつある。中学校でもこの習慣を大切にしてほしい。

質問番号	質問事項										
(42)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	28.6	48.6	14.3	8.6						0.0	0.0
埼玉県(公立)	40.2	41.6	14.7	3.5						0.0	0.0
全国(公立)	36.2	41.9	18.0	3.8						0.0	0.0



この質問事項では、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・県の割合より少ない。ただ「どちらかといえば、当てはまる」まで含めると全国・県にちかくなっている。国語や他の教科での「書く」という力をつけるためにも、児童が自身を持てるような指導が必要であるといえる。

質問番号	質問事項										
(48)	算数の授業の内容はよく分かりますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	54.3	25.7	17.1	2.9						0.0	0.0
埼玉県(公立)	50.3	33.5	11.8	4.4						0.0	0.0
全国(公立)	49.3	34.2	12.4	4.1						0.0	0.0



この質問事項では、算数に対して自信をもっている児童が多い反面、やや苦手意識をもっている児童も全国・県の割合より多い。どの子にもわかりやすい授業の展開や、認め励ましていく指導が必要であろう。

## 5 総括

- ① 学校においては引き続き45分間の授業を大切にし、学習への児童の興味関心が高まるようにしていきます。また、「書く」という言語活動の充実も図っていきます。
- ② どの子にも「わかる、できる」授業の工夫改善に今後も努めていきます。
- ③ 無回答の児童を出さないように、最後まであきらめずに問題を解決する態度と能力を育てます。
- ④ 日々の根気強い取り組みを通し、漢字・計算の習得率を上げます。
- ⑤ テレビの視聴時間やゲームやスマホ、インターネット等の使用時間を見直していただき、家庭学習や読書の時間が十分確保できるように、ご協力をお願いします。